

これからも「競技かるた」の振興を

会員 鶴谷博幸(埼玉県かるた協会 相談役・川口市)

平成30年もあと半月余りで、年の瀬を慌ただしくも感慨深く過ごしている。来年は天皇陛下が譲位なされる歴史的な年である。明治・大正・昭和と三時代を生き抜いた先人と同じように、私も三時代を生き抜く仲間入りとなる。

お正月と言うと、親戚の家に年始に出かけ、従姉弟たちと遊んだことが思い出される。この遊びの一つにかるたがあった。埼玉県には「荒川は豊かな埼玉つくる川」で始まる郷土かるた、そして今は「朝つゆにぬれて輝く古代蓮」の彩の国21世紀郷土かるたがあり、私の住む地区でもこの大会に向けて子供たちが稽古に励んでいると聞いている。郷土かるたを子供から教わった私は、職を退いた今、この郷土かるたに詠まれる名所旧跡を徘徊しているのも不思議な感じがする。

最近では漫画や、映画の『ちはやふる』が人気となり、小倉百人一首競技かるたが盛んになっている。この影響と日本人のお正月文化の変化なのか「かるた＝お正月」の認識がかなり薄れてきているようにも思える。

競技かるたは、明治30年に読売新聞で尾崎紅葉の有名な「金色夜叉」でかるた会の場面が掲載された7年後の明治37年に、萬朝報を創刊した黒岩涙香によってルールが制定され110有余年の歴史を持つ。愛好者は未就学児から高齢者まで世代を超えた室内ゲーム、スポーツとして受け継がれている。かく言う私もその愛好者の一人である。

ルールは1対1の個人戦で、互いに下の句が書かれてある取り札25枚を決められたスペースに3段に並べ、先ず15分間の暗記をする。読手が100枚の札の上の句を読みあげ取り合い、早く自陣の札がなくなった方が勝ちとなる。(相手陣の札を取った時や、相手がお手付きをした場合は相手に札を1枚送ることができる)

読まれた札を早く取ればよいのであるが、かなり心理作戦も要求される知的ゲームでもあることから、今日も幅広い層に親しまれているのではないかと思う。通年行われる競技ではあるが、男女の最高峰を争う名人位、クイーン位決定戦は毎年1月の上旬に行われる。会場は競技かるたの聖地と言われる滋賀県大津市にある近江神宮で、百人一首の第1番「天智天皇」が祀られている。

そして、この近江神宮では7月に競技かるたの甲子園と言われる「全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会」が行われ、今年は浦和明の星女子高等学校が団体戦で初優勝をした。さらに8月に長野県長野市で行われた「全国高等学校総合文化祭小倉百人一首かるた部門」でも埼玉県チームが初優勝と、それぞれ積年の夢を果たし、埼玉県は名実共に高校生部門の競技かるたのトップに躍り出たのである。

迎える年も郷土かるたのように、彩の国埼玉県を「小倉百人一首競技かるた」からも発信できることを祈念したい。

今後のイベントスケジュール * 申込は『JUNO』に応募要項が掲載されてからお願いします。

ホームページ:<http://junosaitama.net/> ブログ:<http://hakutomobulog.at.webry.info/>

- | | | |
|------------|----------------------------------|---------|
| ○1月9日 (水) | プレミアム講座「学校出前授業にみる歴史体験学習」 | <今号で紹介> |
| ○1月18日 (金) | まち歩き研究会「護国寺から豊島長崎の富士塚へ」 | <今号で紹介> |
| ○1月23日 (水) | 見学会「幡羅官衙遺跡群武蔵武士の本拠を巡る」 | <今号で紹介> |
| ○2月9日 (土) | 古道探索倶楽部「第27回鎌倉街道を訪ねて 羽根倉道番外編その3」 | <今号で紹介> |
| ○2月23日 (土) | 講演会「保存と修復から仏像を再考する」 | <次号で紹介> |

古代日本の超技術「古代鉄と日本刀」

2018 (平成 30) 年 11 月 7 日に講演会 99 名が参加

会員以外にも公開している館と共催の講演会を今回は少し異なった視点で実施しました。静岡理工科大学名誉教授の志村史夫先生をお招きして、“古代鉄と日本刀”の副題で、古代日本の超技術の一端を科学の目を通して分かり易く解説していただくものです。参加者は99名でしたが、会員以外の聴講者も多く見られました。講師は、エレクトロニクスの世界で真空管→トランジスタの次の飛躍を担ったマイクロチップ(超小型集積回路)を支える半導体材料の研究者として長年活躍されました。同時に歴史に登場する「モノ」を自称“道楽”研究の対象にして、古代の木造建築、瓦、などと共に鉄の研究に各地を歩いて科学の視点から探究を続けてこられました。

講演冒頭の映像は「たたら」操業の様子で、日本刀作りに不可欠の和鉄の最高ランク「玉鋼」を「たたら」でつくることを印象深く示します。以下、日本刀の三条件「折れず、曲がらず、よく切れる」を実現するための素材と工程の工夫が現代の半導体技術の考え方にも通ずる断面構造をもたらした結果であることを理解させてもらいました。「たたら鉄」の鉄を“鐵”の漢字で表そうという講師の思



いは、鉄こそ(金銀を超えて)金属の王なる哉という主張です。志村先生のモノヅクリへの熱意と造詣がお話の端々に表現されて、古いものを大切にしている精神につながっているように感じます。「温故知新」の4字熟語を「温故知真」または「温故知心」と読み替えるというお話も先生の思いを象徴しているのでしょう。

今回のお話の技術的詳細を初め、他の分野の「古代日本の超技術」も盛り沢山に詰まった著書も紹介されました。写真のカバーにある講談社ブルーバックス B-1797です。志村史夫先生は、中学・高校時代に浦和で過ごされて昔の大宮公園の記憶も残っているとのこと。久し振りの公園風景も楽しまれたというオマケが付きまして。(西本豊司 記・ブログもご覧ください)

「友の会ホームページ」からの申込について

友の会ホームページの「送信フォーム」から見学会、講演会、会への連絡などの申込ができます(右のマークがあります)。パソコンはもちろんスマホの画面からでも送信できます。会員の場合は「会員番号」と「氏名」を記入してください。お持ちの場合は「Eメールアドレス」をご記入ください。



武蔵陵墓地と黄葉の甲州街道歩き

まち歩き研究会 11月16日に開催

今回のまち歩き研究会は武蔵陵墓地と甲州街道歩きです。中央線・高尾駅に22名が集合。一行は近道を通してまずは武蔵陵墓地へ。昭和の初めにつくられた天皇家の墓地で大正天皇・皇后と昭和天皇・皇后の4陵が造営されています。今回が初めてという人も多かったようです。森林が続く丘陵の広大な一郭にあります(略)御陵はすべて上円下方墳ですが微妙に異なるデザインになっています。正面に鳥居があり、神式に祀られていることがわかります。

午後、参道に架かる石造りの豪華な橋の上で記念撮影、甲州街道歩きを開始しました。高尾駅付近は八王子宿から次の小原宿まで中間にあたりますのであまり古い商店や民家が見当たらない地域です。『甲州古道』という観光地図には歩いてすぐのところに「新地一里塚」の跡があるように記載されていますが見当たりません。実は下見の時に隣にある八王子市役所の事務所で訪ねたのですが、まったくわかりませんでした。



やがて延々と続く並木道から横に入る小道があり、今回の道中で唯一、旧道が残っている場所です。旧道が再び現街道と交わるあたりに大正期の道路改修時の道標がありました。高尾山への旅行者が多かったようです。

やがて「千人町」の標識が目立つようになります。千人町は江戸期の千人同心ゆかりの地名で、この付近から八王子宿になります。西八王子駅前を過ぎたあたりが八王子追分の交差点です。ここには江戸期からの道標があります。「甲州道中」と「陣馬街道(あんげ道)」とを示しているのですが、空襲で一部が破損しています。八王子の近代の遺産でもあるのです。陣馬街道に曲がったところに「千人同心の碑」があります。(略) (筑井伸明 記・ブログもご覧ください)

◆護国寺から豊島長崎の富士塚へ

2019(平成31)年1月18日(金)に「まち歩き研究会・富士塚めぐり」

- 《日時》2019年(平成31年)1月18日(金) 10時00分～15時00分 約2時間の散歩になります
- 《集合》護国寺仁王門前(地下鉄・有楽町線「護国寺駅」下車すぐ)10時 集合 小雨開催(各自の判断)
- 《費用》交通費各自 保険と参加費用:300円
- 《持物等》飲物・お弁当など持参(南池袋公園で休憩。近くに食堂、コンビニあります)
- 《概要・行程》今回は初めての「富士塚めぐり」。護国寺には本堂(釈迦堂)や薬師堂、仁王門など江戸初期から現存する貴重な建築物や文化財が多数。境内の富士塚「音羽富士」は登山可能。豊島の長崎富士は国指定の重要文化財。行程は、護国寺(建物見学と墓所めぐり)⇒雑司ヶ谷墓地(夏目漱石など文化人の墓が多数。付近の古道も散策)⇒南池袋公園⇒東池袋(地下鉄で要町に移動)⇒豊島長崎富士塚(高松富士)⇒池袋駅
- 《申込・問合せ》①なるべく「ホームページ」の「申込フォーム」より送信フォームをお願いします。
②Eメール(筑井): pu8n-tki@asahi-net.or.jp ③FAX: 048-470-2758 も可能

◆第27回鎌倉街道を訪ねて 羽根倉道番外編その3◆

2019(平成31)年2月9日(土)「古道探索倶楽部」のお知らせ

- 《日時》2019年(平成31年)2月9日(土) 9時30分～15時30分(予定)
- 《集合》埼京線 戸田公園駅改札口周辺 9:30
- 《コース》埼京線戸田公園駅⇒多福寺⇒早瀬渡船場跡⇒荒川・笹目橋⇒赤塚諏訪神社⇒東京大仏⇒松月院⇒泉福寺⇒増福寺⇒東武東上線下赤塚駅
- 《費用》資料代等・参加費 300円
- 《その他》途中でコンビニが少ないので、お弁当と飲物は必ず事前に御用意願います。
- 《問合せ先》前日まで犬走(いぬばしり) 048-756-5634 当日 小俣(おまた) 090-3436-9017
- 《参加申込み》2月5日(火)までに、普通ハガキに氏名・住所・会員番号・電話番号(ご自宅・携帯とも)を明記して 〒339-0058さいたま市岩槻区本丸3-8-17 犬走東道あて
(早瀬渡船場跡は、美女木八幡社の創建が鎌倉時代といわれる古社であることから、当時より「かまくら道」として早瀬の渡しが重要な渡しであったことがうかがえます)

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会見学会

企画展「埼玉の官衙—律令時代の“お役所”—」開催に合わせて

耳を澄ませば遺跡が語りかけてくる

幡羅官衙遺跡群 & 武蔵武士の本拠を巡る

遺跡ウォッチングにはロマンがあります。今回の見学会では、とびきりの遺跡にご案内いたします。一つは今年2月に国史跡に指定された「幡羅官衙遺跡群」(熊谷市・深谷市所在) 役所、祭祀場、寺院の三つが揃って発掘された官衙遺跡は全国でも三ヶ所しかありません。企画展をご覧になり関連する講演会に参加されるならば是非現地も訪ねてください。見学会では永年発掘に関わられた熊谷市江南文化財センター吉野所長に現地解説をお願いしています。

古代遺跡の後は周辺に遺る中世に活躍した武蔵武士の本拠地の幾つかを巡ります。今日まで、殆ど手つかずのまま遺された堀跡や土塁に登って歴史を感じてください。奮ってのご参加をお待ちします。

行程 大宮—別府公民館(出土品展示見学)—幡羅官衙遺跡群—別府氏墓碑・安楽寺
九品仏—別府氏城館跡(東別府神社)—昼食(和とう肥塚店)—中条氏館跡(常光院)—成田氏関連史跡(龍淵寺・上之村神社)—以上熊谷市域—騎西城跡(加須市)—大宮(18時予定)

日時	平成31年1月23日(水)	積雪以外は実施
集合時間	午前8時(時間厳守)	
集合場所	JR大宮駅西口・大宮ソニックビル西側	
参加費	6,500円(昼食代含む)	

ご参加の申込は

- ★往復はがきに見学会名(略称—1月見学会)・住所・氏名・会員番号・ご連絡先を明記の上、〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会宛 お送り下さい
- ★「友の会ホームページ」にある「申込フォーム」からでも参加申込出来ます
- ★締切01月15日(火)必着 ★定員45名 満席次第締切
- ★会員限定ですがご家族、友人は同伴参加できます。座席希望あれば明記の事

注意事項

- ★途中2キロ程歩きます。足元をしっかりとってご参加ください。
- 見学会に関するお問い合わせと当日緊急連絡先 090-2404-9553 中村均

見て、体験してみませんか？

～ 学校出前授業にみる歴史体験学習 ～

今の子供達に教える歴史の授業に「学校出前授業」が取り入れられていることをご存じでしょうか？土器や民具などの昔の道具に触れて体感することを歴史学習の有力な手段として活用しています。今回のプレミアム講座では、私たち会員の学校時代には経験していない方法を自ら体験してみましょ。各時代の土器の違いや、背負い籠や天秤棒などの民具を“昔の子供”の新鮮な視点で味わってみます。

講師の佐藤さんは、教員としての経験を生かして、現在は館の学習支援担当課長として学校と博物館の連携を担当されています。今年度は藍染め体験等の指導を通じて、学校教育の充実に寄与する活動に力を注がれています。

講師 佐藤 昌幸 氏 当館担当課長

とき 2019年1月 9日(水) 13:30～14:30

ところ 当館講堂

ご参加無料

申込方法: 他のイベントとの混乱が生じやすいため、下記の点にご注意ください。

通常ハガキに、開催日、イベント名・住所・氏名・電話番号・会員番号を明記。

締切: 1月2日までに、下記の宛先へ必着でお願いします。

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

返信はいたしません。お申込みいただければ、ご参加いただけます。会員限定ですが、ご家族、お友達にご参加いただけます。 * 「友の会ホームページ」の「申込フォーム」からも参加申込みできます。(返信はいたしません)